

松平文庫テーマ展 40  
「“異能”の軍学者・井原番右衛門」  
－ 忍者・計略・まじない－  
開催要項

1 会 期 令和4年8月26日（金）～10月26日（水）

休館日：月曜、第4木曜、祝日の翌日

2 場 所 福井県文書館閲覧室（観覧無料）

3 趣 旨

江戸時代、戦術や用兵などを研究する学問として軍学（兵学）が発達し、各藩にはそれを藩主や藩士に指南する軍学者がいました。

井原番右衛門（1611～1686）は、江戸時代前期に福井藩に仕えた義経流の軍学者で、藩の軍制を整備し、歴代藩主から重用されました。また井原は、忍者の創設や新田塚整備のほか、福井城と城下を宗教的に守護する役割も担うなど、幅広い分野で活躍しています。

本展示では、松平文庫に伝わる諸資料から、人とは異なる独特な能力（異能）を発揮した井原の人物像に迫ります。

4 主な展示資料

・「諸師家由緒書」

江戸で義経流軍学を教えていた井原が、寛永20年（1643）福井藩主松平忠昌に召し出され、軍学を教えるとともに武具御用も務め、後に藩の軍制も担うようになった由緒が載る。

・「越藩貴耳録 地」

万治3年（1660）光通の命を受けて井原が新田塚を建立。義貞戦死の場所から出土した甲（兜）の詮議が行われたことが載る。のちには井原が鑑定したとの説が生まれる。

・「片叢記 上編」

延宝2年（1674）光通が逝去した日の夜、光通蘇生を喜び叫ぶ声が領内各地で同時に響き渡った。これは万民が光通に懐いていたようにみせる井原の計略だったと記される。

・「丸山頂上白山勧請書面」

延宝4年（1676）藩主昌親の命により、井原は城の北東（鬼門）に位置する丸山頂上に白山神を勧請。八角石や井筒を設置し、「加持力」で「城地鎮守」を目論んだとされる。

・「諸役年表 十三」

幕末まで続く福井藩の忍之者を創設したのは井原の業績。井原は初代の忍之者預りを務め、その子源兵衛・丞助、孫の源助も同役を任されたことが読み取れる。

松平文庫テーマ展40

『異能』の軍学者

井原番右衛門

忍者・計略・まじない

2022/8/26-10/26 9:00-17:00

肖像 『越前人物志 上』より